



ホンダワラ属標本観察の風景

からの要望に柔軟に対応したWSへと展開していくことが期待される。

参加者氏名（五十音順・敬称略）：秋本恒基（福岡県水海技セ），浅川牧夫（植物資源の力），新井章吾（海藻研），荒木希世（熊本県水研），荒武久道（宮崎水試），安藤恵美子（鹿県環境技術協），猪狩忠光（鹿県水技セ），岩崎 巧（水俣市漁協），加藤英之（水俣市漁協），桐山隆哉（長崎水試），熊谷百合子（NHK 福岡），倉田 魁（水俣市漁協），坂口庭見（水俣市漁協），佐島圭一郎（宮崎水試），島袋寛盛（千葉大），新村 巖（元鹿県水試），末藤正樹（海洋プランニング），田井野清也（高知水試），田中敏博（鹿県水技，当時），寺田竜太（鹿大），鳥羽瀬憲久（熊本県水研），中嶋 泰（オフィス MOBA），永田昭廣（滄海生物環境サポート），Greg Nishihara（長大），浜本 進（水俣市漁協），原田彰久（鹿県水技），松元利夫（鹿県水技），南里海児（ベントス），本村広揮（水俣市），八谷光介（西水研），吉田忠生（元北大），吉村 拓（西水研），吉満敏（鹿県水技），渡辺耕平（西日本オーシャンリサーチ）

¹ 鹿児島大学水産学部，² 鹿児島県水産振興課，³ 鹿児島県水産技術開発センター，⁴ 千葉大学大学院理学研究科

記することも一案であろう。

WSを始めた頃は本属の植生変動現象も今ほど話題になっておらず，鹿児島県水産試験場（当時）に吉田忠生先生（北大名誉教授）や新井章吾氏（株式会社海藻研究所）を迎えての小規模な勉強会だった。参加者が年々増加するとともに内容も西日本全域のガラモ場を対象とするまで発展した。今後の展開は未知数だが，種の同定技術の向上に留まらず，現場



游藻

このコラム欄のタイトル「遊藻子」は「遊走子」を1字変えた造語ですが，かつて「游藻」と称された藻があることをご存知でしょうか。游藻属 *Pandorina* です（現在はクワノミモ属もしくはパンドリナ属）。「游」は「遊」の元になった字で，その字義は水中を泳ぐことです。常用漢字にないため「遊走子」などと書きますが，遊走子にしてみれば必死に泳いでいるのに遊んでいるかのように呼ばれるのは心外かもしれません（中国語では「游」を使う）。欧米からの「植物学」の輸入が本格化した明治期，ラテン名に漢語をあてた分類群名が数多く造られ（もしくは中国経由で輸入され）ましたが，明治26年に白井光太郎（1863–1932，日本最初の植物病理学者）が著した教科書には，すでに藻類の重要な分類群の日本名をいくつもみることが出来ます（右図）。なかには後世に引き継がれなかったものも多数あって，そのひとつが「游藻」です。捨てるには惜しいネーミングと思います。ただし，中国では *Euglena*（眼蟲属）を指すようです。（編）

菌藻門 (THALLOPHYTA)

藻類 (ALGAE)

1 藍藻區 (Cyanophyceae)

- 1 色胞藻科 (Chroococcaceae)
- 2 顫藻科 (Oscillariaceae)
- 3 念珠藻科 (Nostocaceae)

2 矽藻區 (Diatomeae)

3 緑藻區 (Chlorophyceae)

- 1 接生藻族 (Conjugatae)
 - 1 水綿科 (Zygnemaceae)
 - 1 緑紋藻亞科 (Zygnemataceae)
 - 2 緑線藻亞科 (Mesocarpeae)
 - 2 鼓藻科 (Desmidiaceae)
- 2 動子藻族 (Zoosporeae)
 - 1 原生藻科 (Palmellaceae)
 - 1 游藻亞科 (Pandorineae)
 - 2 原子藻亞科 (Protococceae)
 - 3 膠藻亞科 (Pleurococceae)
 - 2 密生藻科 (Confervaceae)

- 1 緑藻亞科 (Confervoideae)

- 2 緑苔亞科 (Ulvoideae)

3 囊藻科 (Siphonaceae)

- 1 合子亞科 (Gamosporeae)

- 2 卵孕亞科 (Oosporeae)

4 間生藻科 (Oedogoniaceae)

- 1 多卵藻亞科 (Sphaeropleae)

- 2 間生藻亞科 (Oedogonieae)

- 3 子衣藻亞科 (Coleochaeteae)

3 輪藻族 (Characeae)

4 褐藻區 (Phaeophyceae)

1 褐子藻族 (Phaeosporaceae)

- 1 小判藻科 (Ectocarpaceae)

- 2 凋端藻科 (Sphacelariaceae)

- 3 久登列利亞科 (Cutleriaceae)

- 4 昆布科 (Laminariaceae)

2 褐藻族 (Fucaceae)

5 紅藻區 (Rhodophyceae)

- 1 裸子科 (Gymnosporaceae)

- 2 被子科 (Angiosporaceae)

白井光太郎著「中等植物學教科書 續編」(1893, 金港堂書籍會社)より藻類の分類群名を抜粋したもの。Eichler (1883)の体系が使われている。